

探訪 北の風景 39

シャクシャイン古戦場跡 渡島管内長万部町

青木和弘

渡島管内長万部町国縫^{くぬい}に、いまから348年前、アイヌの人たちと松前藩の全面戦争になったシャクシャインの戦い（1669年）の古戦場跡がある。国縫川のほとり、旧国縫小学校のグラウンドの片隅に、真新しい石碑が建ち、すぐ後ろを、JR函館本線の札幌行き特急スーパー北斗11号が通過した。

昨年10月28日、このシャクシャイン古戦場跡碑の除幕式が行われているが、5年ほど前から地元³の長万部アイヌ協会や国縫自治会などで記念碑建立の気運が高まり、町が応えてこの日を迎えた。公益財団法人北海道アイヌ協会の加藤忠理事長、

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の村睦男理事長、NPO法人新ひだかアイヌ協会の大川勝会長らも出席した。そこに刻まれた碑文を紹介しよう。

「シャクシャインの戦争」クヌイ古戦場跡

一六六九（寛文九）年、和人との交易の不平等に怒りをつのらせたアイヌのおさシャクシャインが、アイヌモシリ全域に呼び掛け、呼応したアイヌによつて軍を編成、松前藩に対する一大軍事蜂起となった。

シャクシャイン軍は七月末にはクヌイに到達し、クヌイ川をはさんで、松前藩と対峙する。

アイヌの毒矢と和人の鉄砲の撃ち合いが続いたが、やがてクヌイに指揮官松前泰広⁴が合流すると武力に劣るシャクシャイン軍は後退を続け、オシャマンベから更に本拠地シベチャリ（現新ひだか町）まで後退させられた。シベチャリに退いたシャクシャインは松前軍との和睦をよそおった酒宴で殺され、戦いは収束に向かった。

クヌイ川をはさんだこの地は、松前を目指して攻め寄せたシャクシャイン軍と松前軍との、最大の激戦地の跡である。

この戦いは、先住民族アイヌと中央政権との主従関係の成立を意味しない。



長万部町にある「平和祈念館」には、北海道出身の彫刻家・本郷新の「嵐の中の母子像」「わだつみのこえ」などの野外彫刻や、丸木位里・俊夫妻の「原爆の図・母子像」、円空の「観音座像」、室町時代の仏像やインドなど西域の仏像などが驚くほどたくさん展示されているから見逃せない

それは一九世紀初頭から二度の幕府直轄を経て、明治期からの近代法体系の中で漸次形づくられたものである。さらに戦いの勝ち負けは、生き方の善し悪しを意味してはいない。

この地に眠る両軍犠牲者の御霊を鎮め、明日を生きる教えの礎として、ここに碑文を刻す。

二〇一六（平成二十八）年九月建立

長万部町長 木幡正志

碑文は、北大アイヌ・先住民研究センターの佐々木利和客員教授の監修で、歴史的経過とともに「この戦いは、先住民族アイヌと中央政権との主従関係の成立を意味しない」などと刻んだ。関係資料を見ると、蜂起したシャクシャイン軍は2000人。松前軍の鉄砲は200挺という数字が目についたが、出典の確認はできなかった。各地で殺害





国縫川のほとり、旧国縫小学校のグラウンドの片隅に建てられたシャクシャイン古戦場跡碑

町民センターの「郷土資料室」には古地図なども展示されている



持ちになった。

言葉を尽くした和睦を持ちかけられると、一蹴できないものであったという。何とも、やりきれない気持ちになるのだが、「戦いの勝ち負けは、生き方の善し悪しを意味してはいない」という碑文を読んで、少しか救われたような気が

この間、松前藩は、たびたび和睦の酒宴を装ってだまし討ちを仕掛け、戦いを終わらせることがあったという。アイヌの統率者が容易にだまし討ちに遭うのは、交易が単なる物品の交換ではなく、交易相手への丁重で厳粛な儀礼を伴ったものと考えていたからで、

された和人は355人（『北海道の歴史』山川出版）とされるが、双方の戦闘による犠牲者数などは分らなかった。松前藩の記録によって作成したとされる年表では、室町時代の1456（康生2）年から江戸時代の1789（寛政元）年までの333年間で24回の「蝦夷蜂起」が起り、アイヌ3大蜂起とされるのが、コマシャインの戦い（1457年、シャクシャインの戦い、クナシリ・メシナの戦い（1789年）である。